

令和7年度 第1回新発田市総合教育会議（会議録）

1 開催日時 令和7年10月30日（木）

開会：午後2時15分 閉会：午後4時30分

2 開催場所 新発田市立加治川中学校

3 協議事項

（1） 新発田市のライフデザイン講座の概要について

（2） 授業参観

（3） 質疑及び意見交換

○ 協議テーマ「中学生向けライフデザイン講座の取組について」

4 出席者

市長	二階堂 馨
教育長	工藤 ひとし
教育委員（教育長職務代理者）	石坂 均
教育委員	笠原 恭子
教育委員	村川 孝子
教育委員	山崎 由紀

5 会議に出席した事務局職員等

○市長部局

みらい創造課長	樋口 茂紀
みらい創造課課長補佐	鳥海 貴宣
みらい創造課U・J・Iターン支援専門官	大森 裕子
みらい創造課企画政策係長	齋藤 直樹
みらい創造課ライフデザイン係	蒲木 みゆき

○教育委員会事務局

教育次長兼教育総務課長	橋本 隆志
学校教育課長	彌源治 仁伺
教育総務課課長補佐	阿部 成美
教育総務課教育総務係長	小島 貴志
加治川中学校校長	堀田 正秀

○講師

株式会社トアイリンクス代表取締役

ライフデザイン講座講師 佐藤 ユウキ

6 協議・報告事項の経過

別紙次第のとおり

(1) 開会

○樋口みらい創造課長

それでは皆様、大変お疲れ様でございます。会議に先立ちまして、本日のスケジュールについて御説明をさせていただきます。初めに、みらい創造課の大森U・J・I ターン支援専門官から当市が実施しております中学生向けライフデザイン講座とはどのようなものであるかの概要について御説明をいたします。

その後、3階の学習室に移動していただきまして、中学2年生を対象としましたライフデザイン講座の授業の様子を御参観いただきます。

ライフデザイン講座は2年生の2クラス合同で開催しております。グループワークを取り入れた授業を行っております。授業が終わりましたら、再びこちらの会場へ戻っていただきまして、本日のテーマであります中学生向けライフデザイン講座の取組について質疑及び意見交換等を行っていただきます。終了予定時刻が概ね16時20分頃を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、令和7年度第1回新発田市総合教育会議を開会いたします。初めに、開会にあたりまして、二階堂市長より御挨拶をお願い申し上げます。

(2) 市長あいさつ

○二階堂市長

皆さんこんにちは。新発田の教育、とりわけ子ども達の教育に大変活躍をしていただいて大変嬉しく思っております。今日は総合教育会議ということで喜んでやってきました。

今、最も気になることが二つあります。一つはクマです。金塚の団地の方でクマの出没があったとの報告を受けてパトロールを行っているようであります。私が少年の時は、クマが出たというと、ハンターや大人の皆さんは山へ行くのですが、我々子ども達は棒を持って缶を叩き、クマが捕らえられるのを見に行きました。今考えてみれば大変危険この上ないかもしれないけれども、見ようによってはのどかと言いますか、そういう少年時代を過ごしていました。今、クマがこの学区に限らず日本全国で出没していますが、大変注意をしなければ

ばいけないし、子ども達の登下校が心配だなと思っています。ぜひ皆さん方も、折に触れて現場の教職員にしっかりと対応していただくよう声をかけていただきたいと思います。

もう一つは、直接教育とは関係ないかもしれませんが、メジャーリーグです。メジャーリーグの大谷選手の活躍は目を見張るものがあります。でも、我々の世代から見ると、大谷選手の活躍があればあるほど、やはり気になる選手は野茂英雄さんです。彼は近鉄バファローズのエースでありスターでしたが、子どもの時の夢であったメジャーリーグでプレーしたいとの夢を実現するために海を渡ることを決意しました。日本のプロ野球はこぞって「裏切り者」と大変なバッシングを彼に浴びせ、今までのスター選手がちゃぶ台返しにありました。それでも、彼は子どもの時の夢を叶えるためにメジャーリーグに行くわけですが、受け入れるメジャーリーグも、日本の選手を受け入れたドジャースも、年俸を見ればわかるとおり、マイナーリーグの年俸しか与えなかったということです。当時、彼はトルネード投法で、確かノーヒットノーランを2度達成し、大変な活躍をしました。それを見ていた日本のプロ野球は、今度は彼のことを日本のプロ野球の底力を世界に示したと言いました。ちゃぶ台返しのちゃぶ台返しみたいなものです。でも、子どもの時の夢を叶えるという姿勢、背中に感化されたイチローがそこに続いて海を渡り、そしてそのイチローの背中を見て、ダルビッシュや大谷が続いたと私は思っています。まさに教育だと思いますね。野茂英雄さんが未開の開拓をして、そしてその背中が次の世代に教育したということで、私はこういうことが本当の教育なんだろうなと思っています。

新聞報道で知りましたが、今回ノーベル賞を受賞した北川先生から子ども達に何かコメントしていただけないかという記者の質問に対して、「幸運は突然ではなく、準備をしているところにやってくる。いろんな経験を大切にしてほしい。」と言いました。まさにこれが教育でしょうね。

北海道大学、昔は札幌農学校にクラーク先生は確か半年ちょっとぐらいしか学校にいなかったと思いますが、子ども達にそれほど触れる機会はなかったはずですが、ただ、帰る時に「ボーイズ・ビー・アンビシャス、少年よ大志を抱け」と言いましたが、これは教育ですよ。まさに、子どもの心に、若者の心の琴線に触れ、心を揺れ動かし、影響を受けた子ども達が、いろんな活躍をしたんだろうと思います。この心の琴線に触れるというのがとても大事だということでもあります。

日本は色々な意味で世界からあまり良く評価されてない、あるいは、日本を悪く言う日本人もいますが、私はそんなに悲観をしていません。なぜかという、子ども達のアンケートで、なりたい職業の中に教員が小学校も中学校も少なくともベスト3には入っているんですね。私はその姿を見た時に、日本は捨てたもんじゃないと思っています。つまり、子ども達が教員になりたい、教員の背中を見て追いかけていたいと思っているのは、きっと授業をうまく教える先生の背中を見ていたからではなかったと思うんですね。子どもの心の琴線に触れるような先生がいて、いつか自分も教員になってみたいなと思っている。一番大事なこと

は、子どもの心の琴線に触れるということがとても大事だと思います。

今日の中学生向けのライフデザイン講座は、まさに心の琴線に触れないような先生が果たして教えられるかということです。私も高校の時だったと思いますが、ライフデザインにほぼ近いような授業が1時間か2時間、2回ぐらいあった記憶がありますが、当時のその先生の琴線に触れませんでしたので、内容をほとんど覚えていません。

時間は前にしか進まないという格言がありますが、今日は素晴らしい心の琴線に触れる授業を参観できるということで楽しみにしています。後ほど皆さん方から色々な御意見を賜って、また少しでも新発田の子ども達が前に進めるような教育を市長としてもバックアップしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(3) 概要説明

○樋口みらい創造課長

ありがとうございました。それでは早速、新発田市のライフデザイン講座の概要について御説明を申し上げたいと思います。

○大森みらい創造課U・J・Iターン支援専門官

ライフデザインとは、進学や就職、結婚や出産子育てなど、人生の大きな岐路に立った時に、自分がどういう人生を送りたいのか、自分らしい選択をして、自分の希望する人生を歩んでいけるように早い段階から自分の人生をデザイン設計してみましょうというものです。そのために、ライフデザイン講座では、ライフイベントについて積極的に考える機会とライフデザインの描き方を学ぶ機会を提供しています。みらい創造課が少子化対策の一環として行う事業ですので、ライフイベントの中でも特に結婚や子育てを意識してもらえるような内容としています。もちろん、結婚や出産子育ては個人の自由な意思に基づくもので、プレッシャーにならないよう配慮しながら進めています。

新発田市では、中学生向けライフデザイン講座を令和3年度から段階的に実施し、令和6年度からは市内全部の中学校10校で実施しています。さらに今年度は高校生にも拡大し、5月に新発田南高校で実施しました。12月には新発田農業高校で実施する予定にしています。新発田市の取組を参考に、阿賀野市でも取り組み始め、昨年度から全中学校で実施するようになりました。見附市と十日町市も今年度から実施しています。また、定住自立圏でもぜひ実施したいとの希望があり、今年度は胎内市と聖籠町の中学校各1校で実施しました。さらに新発田市では、社会人を対象としたライフデザインセミナーにも取り組んでおり、それぞれの段階に合わせたライフデザイン講座を展開しています。

国も少子化対策の一環として、若い世代のライフデザイン支援に力を入れてきています。令和7年度は、「ライフデザイン結婚支援重点推進事業」として、重点メニューに若い世代の描くライフデザイン等支援を創設しました。重点メニューの取組に対しては、地域少子化

対策重点交付金の補助率が4分の3になっています。若い世代に、結婚、子育て、ワークライフバランスを視野に入れたライフデザインを考える機会を提供する取組が少子化対策に繋がることが期待されています。

実際、結婚や子育てに関するアンケート結果を見てみると、ライフデザイン講座の受講前と受講後では明らかな変化が見てとれます。

令和6年度に、20代から30代の未婚者を対象として実施した社会人向けライフデザイン講座のアンケート結果では、将来結婚したいかという質問に対して、結婚したいと答えた人は、講座前では53.3%だったのに対し、講座の後では68.4%となり、15.1ポイントアップしています。同じアンケートで、将来子どもが欲しいと答えた人は、講座前の29.4%から、講座後には47.4%となり、18ポイントアップしました。

今年5月に新発田南高校で2年生を対象に実施したときのアンケート結果では、将来結婚したいと答えた人は、講座前と講座後では14ポイントアップしました。同じく南高校のアンケートで、将来子どもが欲しいと答えた人は、講座後には16.6ポイントアップしました。

今年度ライフデザイン講座を実施した本丸中学校のアンケート結果では、将来結婚したいと答えた人は講座前と講座後では12ポイントアップしました。同じく本丸中学校のアンケートで、将来子どもが欲しいと答えた人は、講座後には12.1ポイントアップしました。アンケートについては、先ほど御紹介しました阿賀野市を始めとする各市町でも同じような結果が出ているそうです。どの年代も、わずか2時間程度の講座を受講するだけで、結婚や子どもを持つことに対して肯定的に捉えるようになることは、少子化対策の入口として大きな成果があると考えています。

興味深いのは、高校生や中学生のアンケートに比べると、社会人のアンケートでは、事前事後ともに結婚したい人のパーセンテージも、子どもが欲しい人のパーセンテージも低いということです。

アンケート結果を見てみると、将来結婚したいかという質問に対して、高校生は事前が61.0%、事後が75.0%、中学生は事前が63.1%、事後が75.1%と、ほぼ同じくらいの割合で推移しています。ですが、未婚の社会人は事前と事後ではアップしているものの、事前が53.3%、事後が68.4%と、中高生よりも低い割合となっています。この中高生の高い割合を、社会人になっても継続できることが理想です。同じく将来子どもが欲しいかという質問に対して、高校生は事前が52.8%、事後が69.4%、中学生は事前が58.9%、事後が71.0%と、近い割合となっています。ですが、社会人はアップしたポイントは18ポイントと高いものの、子どもが欲しいと思っている人は、事後でも47.4%と、半数にも満たない状況です。20代から30代未婚社会人の結婚や子育てに対する意識の割合が低いのは、結婚や子育てが現実味のあるものとして近づいてきた時に、年齢的にも積極的になれなくなるのか、もう無理そうだと諦めてしまうのかはわかりませんが、中

学生・高校生の高い意識を、社会人になっても維持していけるように、ライフデザイン支援に取り組んでいきたいと考えています。

今日のテーマは中学生向けライフデザイン講座の取組についてですので、中学生が希望を持って理想とする人生を歩んでいくために、どのような内容で授業が進められているのか、御紹介させていただきます。大まかな内容としては、無意識におぼろげに、どんなふう生きていこうかなと考えている段階から、自己理解を深めて、目的意識を持ってライフデザインを描くことで、未来の自分に繋がる次の段階を明確にしていくことを目指します。対象としている学年は、主に中学2年生です。授業時間は連続する2コマをいただいて実施しています。後ほど講座の様子を見学していただきますが、今現在、1コマ目の授業が進められているところです。

講座の流れとしましては、講義やワークをとおして、未来社会がどう進むのかを知ってもらい、自分自身と仕事についての理解を深めてもらって、実際にライフデザインを変えてみるというところまでやってもらいます。

まず、未来社会がどう進むのかを知るために生徒に伝えていることは、社会的背景についてです。今の社会は、Society 5.0 新たな社会と言われているとおり、技術革新によって様々な技術やサービス、モノなどが生み出され、新しい多様な価値観が広がっています。獲物がたくさん捕れれば幸せだった狩猟社会や作物がたくさん採れれば良かった農耕社会、大量生産で物がたくさん売ればよかった工業社会の時代は、価値観が単一で幸せになるための正解がありました。ですが、現在のように価値観が多様になった社会では、幸せになるための正解が人それぞれ違うようになってきました。

今は新しい仕事がどんどん生み出される時代です。今の日本には1万7000職種あります。ある海外の研究では、2007年に日本で生まれた子どもの半数は107歳より長く生きると推計されているそうですから、長寿社会において、一生で一つの仕事だけではない可能性もあります。リモートワークなど、時間や場所に縛られない働き方も出てきました。このような時代にあることを中学生に理解してもらって、自分の祖父母や両親が過ごしてきた時代とは違う価値観で、自分の人生を考えていかななくてはならないことや、正しい情報や知識を得て、自分で自分の進むべき道を選択していく必要があることを伝えています。

次に、多様な価値観の中で自分が納得できる道を選択していくための、自己理解と仕事の理解についてです。厚生労働省が公表した令和3年度に大学を卒業した人の就職後3年以内の離職率は34.9%でしたが、仕事とのミスマッチから離職に繋がることを防ぐためにも、自己理解、仕事理解は大切です。

講座では、自分の性格や考え方、ジェンダー意識の他、興味があることなど、自己理解を深めてもらうために、ワークに取り組んでもらいます。最初は、将来の家庭における家事の役割分担についてのワークです。家庭を持つつもりはないという人でも、お友達やパートナーと一緒に暮らすことを想定して考えてもらいます。直感的に90秒でやってもらいます。

将来の家庭における家事の役割分担ということで、掃除をしたら自分がやるとか、相手にやってもらいたいとか、どちらも同じぐらい分担していきたい等を考えてもらいます。授業では、講師からの質問に対して元気に答える生徒がたくさんいます。

次は、性差による違いについてのワークです。例えば、営業職に就くのは男性が向いているのか、女性が向いているのか、それともどちらもできるか等、いろいろな問いを生徒たちに投げかけてきます。これをやることで、狭い範囲の中でも、人それぞれ違う考え方があって、人それぞれの普通があることを理解してもらえます。

次は、自分への理解を深めてみようということで、自分の長所や短所を知るためのワークです。このワークは、相手から長所や短所を引き出して、相手の取扱説明書を作成していきます。聞かれる方は、自分のことをわかってもらうために説明しなくてはならないので自分を表現する訓練になりますし、自己理解を深めることができます。

次は、好きなこと得意なこと、嫌いなこと苦手なことについて、これも同様に相手から聞き出したり、自分のことを説明するワークです。私、こう見えて意外と〇〇なんですという、相手の知らない自分も紹介できるように頑張ってもらいます。なかなか自分の長所がわからなくて、相手から自分の良いところを教えてもらったりしていることも見受けられます。

次は、夫婦の役割分担の理想を考えるワークです。将来どんなパートナーシップが理想なのか、夫婦間の仕事と家事の分担は、自分はどれぐらいのパーセンテージでやっていきたいのか等を考えてもらいます。これらのワークをやることで、自分のジェンダー意識や無意識の思い込みに気が付いたり、長所や短所、得手不得手など、自分自身の理解を深めたりすることができます。

ワークの他にも、新発田で働く様々な職種の方の動画やエピソードを見てもらいます。みらい創造課の職員が数年前にいろいろな職業の人を取材して作成したのですが、子ども達が目や表情が変わっていくのがわかるほど、真剣に見入っている様子が見られます。

最後は年表に自分のライフデザインを書き込んでいきます。3年ごとに15年後まで考えてもらいます。ライフデザインを考えることが勉強なので、夢のようなプランでも少し現実離れしたようなプランでもOKです。生徒たちには講座の初めにも同じ年表を書いてもらうのですが、初めは何も書くことができなかった生徒も、講座を受けた後は、ずいぶん書けるようになります。将来に希望を持てるようになる生徒も多いです。自分のライフデザインを書いてみて、ペアになってお互い発表している様子を見てみると、照れくさそうにしながらも楽しそうに将来の夢を語っています。本丸中学校での講座後のアンケートを見ると、将来のイメージについて、ドキドキわくわくすると感じている割合は講座前が24.7%だったのに対し、講座後は38.6%となり、13.9ポイントもアップしています。逆に、将来のイメージが不安、大変そうと感じている割合は、講座前は63.7%あったのに対し、講座後は45.5%となり、18.2ポイントダウンしています。子ども達が正しい知識と情報を得て、希望を持って自分の人生をしっかりと考えていく機会を持つ中で、将

来に対する不安が減り、わくわく度が増していく生徒が多いことがとても嬉しいことです。

また、未婚率が高いとか、少子化だとかいう言葉を使って話をするわけではありませんが、自分が理想とする人生と向き合うことで、自然と結婚、子育てのことを考えたライフデザインを描いている子ども達が多いように感じます。あまり深く考えたこともなく、漠然としてわからないと感じていたものが明確になっていくようです。将来就きたい職業があるなら、そこに向けた行動を、結婚したいと考えているなら、そこに向けた行動を、今何をすべきか、いつまでに何をすべきか、逆算して考えることを学んでもらうことで、子ども達が将来の希望を叶え、幸せな人生を送っていけるよう支援してまいります。概要は以上になります。ありがとうございました。

この後、休憩を挟んで、ライフデザイン講座の様子を実際に見ていただきますが、ちょうど子ども達がペアワークをする時間になると思います。ぜひ子ども達の近くへ行ってみよう様子を見たり、声をかけたりしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(4) 授業参観（加治川中学校2年生）

(5) 協議事項等

○樋口みらい創造課長

授業参観大変ありがとうございました。会議を始める前に本日の講師の方から少し自己紹介をしていただきますので、よろしくお願いいたしますと思います。

○佐藤講師

ありがとうございます。私、株式会社トアイリンクス代表取締役の佐藤と申します。30歳で新潟市で起業しまして、結婚支援、レンタルスペース、h t t pデザインなどの仕事をしている傍ら、ライフデザインのセミナー講師として活動しております。9年間で、中学生から社会人約5000名ぐらいの方に講座を受講いただいております。

新発田市では、5年前から中学校のライフデザイン講座の講師を務めさせていただいております。今日はよろしくお願いいたします。

○樋口みらい創造課長

ありがとうございました。それでは会議を始めさせていただきます。進行につきましては新発田市総合教育会議設置要綱第2条第1項の規定によりまして、会議の議長は市長が務めることになっております。二階堂市長、よろしくお願いいたします。

○二階堂市長

それでは、私の方でしばらくの間、座長をさせていただきたいと思いますが、大変有意義

な授業を参観させていただきました。素晴らしいなと思っております。今の子ども達は、果たして将来のデザインを考えているのかな。自分に当てはめた時には全く考えていなかったよなと思いましたけれども、授業をとおして、将来、未来に関心を持つということはとても大切なことだなと思い、感心しながら授業を聞かせていただきました。

それでは先ほどの授業を踏まえて、教育委員の皆さん方から何か感想、あるいは意見があれば発表をしていただきたいと思います。いかがですか。村川委員。

○村川委員

大変良いものを拝見させていただきましたありがとうございます。中学2年生、この時期の子ども達が素直に成長されていることに私は素晴らしいなと、校長先生、先生方の日頃の精進かと思います。今日は授業の所々で、これは今考えていることだよとか、これから変わることもあるよとか、自由に考えていいんだよ等の先生からの言葉掛けが、子ども達の活発さを引き出したのかなと思いました。私自身を振り返って、今の時期の子ども達に伝えることが必要だと思いましたし、新発田市が様々なところで取り組んでいることについても認識することができてありがたかったです。

今、新しい学習指導要領作成に向けての論点整理の素案が出ている時期かと思います。これからますます主体的対話的で深い学びの実現に向かって進んでいくのではないかと思います。そのような時に、学校だけの力では子ども達を育てることは難しいのではないかと思います。今回のように専門の方が多く関わってくださるとか、行政の方々や市の様々な人材が関わり、子ども達の授業のために活躍して下さっていることが、新発田の子ども達を育てるのではないかと思います。持続可能な社会はみんなで作っていくという言葉がありますが、このような取組をこれからも続けていけたら良いと思います。様々な制約もあるかと思うのですが、これからも子ども達にこのような良い経験をさせていただけるようお願いいたします。

また、学校現場でも努力をしなければいけないと思います。今日の授業の流れを見ていて、社会科や家庭科、そして保健体育、理科、様々な教科の中に繋がっていくような要素がたくさんありました。この2時間という中で終わるのではなくて、色々な教科の中に繋げてほしいと思いますので、これは学校側にお願いします。新しい指導要領の新しいカリキュラムの中に位置づけ、繋げていただきたいと思います。そのことにより、新発田の子ども達は成長するのかなと思います。

新発田の中学生は総合的な学習において、整理したり調べたことを発表したりする等の活動について、大変好意的に捉えています。それは、新発田市が食の教育、人権教育、そしてしばたの心継承プロジェクトのような総合的な活動に力を入れていることにより、子ども達の力がついていると思うんですね。ぜひこれを次期の学習指導要領にも反映させてほしいなと願います。

○二階堂市長

他にございますか。

○石坂委員

今日はどうもありがとうございました。感想の前に一つだけお聞きしたいのですが、最初の説明で、講座を受講した事前事後で、ポイントが伸びたという成果のお話がありましたが、逆に中学生に今日のような講座をしていて、課題に感じるようなことがありましたら教えていただきたいと思います。

○佐藤講師

中学校で言うと、中学1年生ですと発達の差がすごく大きいので、中学2年生以上が好ましいというのは個人的に思っています。ですから、中学校2年生も初期よりは今ぐらいの時期の方が理解力が深まって、より深く探求して自己理解のキャリア形成と結婚、出産を踏まえたライフデザインというところに結びつくと思うので、受講する時期はすごく大事ですし、先ほど村川委員がおっしゃられたように、先生方との関わり合い、日頃の関わり合いがすごく作用する部分があるので、オープンに相互で意見交換ができていく学校であると、学習の学びが深いと思います。また、生徒のアンケートで書かれていることとして、親に話を聞いてほしいといったような回答があるので、親御さんへのオープン公開授業のようところで、社会の大人達と今の子ども達が置かれている環境が違うということを理解することは、すごく大事な視点だと思っています。回答になっているかどうかわからないのですけども、子ども達を主体にした学びの場作り、環境作りのようなことはすごく大事であると考えております。

○石坂委員

ありがとうございました。感謝も含めて少しお話させてもらいたいと思いますが、今の質問とも関係があるのですが、最初にこのワークシートを見た時に、どんなふうを書くのだろうか。小学生、高校生であれば何となく想像がつくのですが、中学2年生を対象にどのような取組をするのかなということが、大変不安でもあり、興味を持ちながら今日の授業を拝見しました。最初にペアで話をするところから参観したので、最初の1時間目は見ていないのですが、さっと生徒同士がペアを指示し、話し合っていました。それから、割と恥ずかしくてもおかしくない内容でも、それをしっかりシートに書いて、楽しそうに進めているのがすごく印象的でした。ですから、最初に私がこのシートだけを見て不安に思っていた要素は、実際に子どもたちの動きを見て全く杞憂に終わりました。やはり、普段から授業も含めて学級作り、学年作り、そして小学校からの人間関係がうまくいっている学年、学級なんだ

なと感じました。見ていても楽しそうに書いているので、こちらからも声をかけたりして、私の最初の不安は、実際講義の中では全くなくなりました。良い状態、良い状況で普通の授業を進めているのだろうなと思いましたし、今日の講座も意義ある活動だったのだろうなと思いました。

2時間という限られた時間、それからこの事業の目的からすると、どうしても結婚の話にある意味偏ってしまうのは、これはやむを得ないと思いましたが、職業を一つとっても、おそらく自分達が大人になる頃にその職業があるのだろうか、なくなる職業から続く職業、新たに出てくる職業等、ものすごく不確実な未来を見ながら、子ども達が生活している時期だと思うんですね。そういう意味でも、今日のようなある意味体系づけた、きちっと流れを見て、話を聞き、考える機会を持つ、おそらくこのような機会がないと、なかなかみんなと同じように考える機会はないと思うので、良い機会かなと思いました。

ライフイベントといった時に、何が出るかなと思って聞いていました。生徒にとっては現実的なのはやっぱり進学、就職だと思ったのですが、最初に結婚や出産が出てきたことから、今日の講座の内容にずっと入れたと思いました。逆に言うと、進学や就職はあまりにも現実的すぎて、ライフイベントとして取り上げるには、あまり生徒の意欲が湧いてこないのではないかと思います。現在は男女交際も我々昭和の時代から比べるとハードルが低いと言いますか、ごく身近なものになっている背景もあって、夢でもあり憧れでもある結婚を取り上げることにより、今日の活動が楽しく成立していくのかなと思いました。そういう意味でやはり、このような機会を設けるということはすごく大事であり、学習としてきちんと考えることはすごく大事なことだと思います。開会の挨拶の時に市長の話もありましたが、大谷翔平さんの人生設計ノートはまさしくライフデザインですね。ライフデザイン講座は、生徒にとって興味もあり、これからの人生を考える良い機会になったのかなと思いながら、今日は非常に大事な授業を見させていただきました。ありがとうございました。

○二階堂市長

ありがとうございました。それでは他にございませんか。どうですか、笠原委員お願いします。

○笠原委員

今日はどうもありがとうございました。中学生向けのライフデザイン講座を何年も行っているということでしたが、今高校1年生の息子も受けたのかなと思いました。この話題が家で一切出てきませんでした。先ほど親に自分の話を聞いてほしいと思っているお子さんがいらっしゃるということでしたが、子どもの将来についての正しい知識であるとか、正しい情報を親も学ばなければいけないと、今日の講座を見ながら感じたところです。親御さんにも公開授業をすれば、今日授業でこんなこと言ってたよねと、家に帰ってもその話の続

ことができますし、シートに何を書いたのか等の会話をとおして、より子どもの将来のことについて、自分も考えるし、親も考える機会が増えるのではないかなと思いました。

自分が中学2年生の時は将来のことを考えていませんでしたが、受験受験となりがちなところを、夢を見る、憧れるという、子どもにとって大事な部分をこのような機会に自分で考えることがすごく大事なことだと思いますし、子ども達がライフデザインで自分が思うことを素直に描くことができ、自由でいいんだ、安心だと感じられるのは、CAPプログラム等、新発田の教育の中の様々な取組が繋がっている成果であると、強く感じたところです。

学校の方にちょっとお聞きしたいんですけども、3年生になると進路を選択することになります。2年生でこの授業を受けて3年生になると、進路の話が進めやすくなる等の効果はありますか。

○堀田加治川中学校長

3年生になりますと当校では上級学校訪問というものがございまして、キャリア教育という形で総合的な学習の時間に取り組んでおります。もちろんこういった取組が今日のようライフデザイン講座をしていただくことによって、子どもたちも将来的な夢、それに向けての上級学校訪問という形で、非常に繋がりがやすくなっているのかなと考えています。

○笠原委員

ありがとうございました。うちもお店をやっているんで、キャリア教育で子ども達が職場体験に来ますが、多様な学び方、多様な働き方を子ども達は学校で学んできているんですけども、大人の私達の方が学びきれていないのが現実かなと思っています。そのため、学校の方からも子ども達はこういう活動をしています等の手紙を出していると思いますが、もっともっと何か発信できたらいいかなと思っています。ありがとうございました。

○二階堂市長

ありがとうございました。山崎委員お願いします。

○山崎委員

本日は、貴重な機会を本当にありがとうございました。素晴らしい授業だったと私も思いました。ありがとうございました。上級学校訪問があるということでしたが、中学生が将来の仕事について考えるような機会はどこかであるのでしょうか。

○堀田加治川中学校長

進路学習の時間、特別活動の時間等を使いながら学習を進めているところであります。上級学校訪問につきましては、新潟食料農業大学、新潟職業能力開発短期大学校、そして

敬和学園大学の三つの学校に訪問させていただいています。

○山崎委員

その上で感じたことなのですが、みらい創造課の話によれば、ライフデザイン講座の目的は少子化対策が大きいとのことですが、それも新発田市にとって非常に大きな問題だとは思いますが、先ほど石坂委員から子ども達の将来について現実的とお話がありましたが、一方で将来の仕事というキャリアのところと、両方だと思うんですね。そして、これがうまく両立していければいいけれども、先ほど市長の御挨拶の中であった子ども達が将来夢を持てる人生の設計を描く中で仕事の選択肢として、野球選手の例でおっしゃっておいででしたが、それだけではなくて、もっともっと身近な仕事も含めて、色々な夢を持てるということは非常に大事なのかなと思いました。

先ほどの石坂委員のお話と、私の気になったところが一致していて、将来のこれからのライフイベントにどんなことがあるかというところで、結婚と出産が出て、それからしばらく意見が出てこなくて、就職は出ないのかすごく気になってハラハラしながら見ていました。その中で、最後に佐藤先生からこんなこともあるよと付け足してお話いただいた中に仕事の話が出てきました。多分杞憂だろうとは思いますが、結婚、出産のことを意識づけるあまり、就職という可能性、キャリアの可能性の発想がおろそかにならなければいいなというのは若干気になったところではありました。教育委員会で申し上げているのですが、私は都市部から転入し、大学で教員をしているため、勉強して就職した女の子がみんな25歳位で結婚をしてしまうことが、結婚年齢が遅い地域から来た立場からすると、若干もったいなさみtainなものも感じています。一方で、少子化問題は本当に大切なことなので、そのバランスと両方見ながら進めていかなければいけないと思います。

先日、学校訪問をさせていただきましたが、その時に学力テストの話が出て、学力を上げていかなければいけないという話になったのですけれども、自分の力をどのように社会に生かして社会貢献ができるかを考えることは、就職にも繋がる話であると思います。就職やキャリアの可能性の発想がおろそかになってしまうことは、学力を一生懸命あげましようとして努力しているところから見ると、とてももったいないことなのかなと感じます。とは言え、私はこの資料を最初はモヤモヤしながら拝見していたんですね。例えば男女の役割、性差の違いやワークシートの家事の役割分担の話等、どうなるのだろうと思っていました。もし、あまり押し付けない、書いたことに対して否定しないとしたら、変に考え方を固定してしまうことにならないかと心配をしながら拝見していましたが、シートの回答を見せてもらった子ども達のほとんどが、家事をどちらもやるとチェックしていたことに、私はすごく救われたような気がしました。この子達だったら将来大丈夫だと思えるところもあって、でも、少しステレオタイプに思っているところもあるように思いました。例えば仕事の役割分担と家事の役割分担をパーセンテージで出した時に、良いコメントをしてくれたスーパーボ

ーイがいましたが、仕事は50:50なのに家事は女性70で、すごく気になったのですが、違う形でその男の子が全部引き受けるのだと先生が指摘してくださいました。そのように、子ども達を否定せず、教えるべきことを教えてくださっているところは本当に良い授業であつたと感じました。

また、授業のあり方、それから生徒たちのあり方もそうなのですが、非常に新発田らしいなと思ったのは、多様性を非常に大切にしているというところかと思います。まず最初に思ったのは、生徒たちが本当に元気に廊下で挨拶をしてくれることです。これは、先生方の御指導の賜物かと思うのですけれども、あの挨拶があるから教室に入ってお互いにあれだけ盛り上がって自由に色々な話ができるのかなと感じました。それに加え、発表する時の注意事項として何箇条か書いてくださっていましたけれども、否定しないで相手にリスペクトの気持ちを持ってちゃんと聞くということも伝えていただいていたいました。新発田のCAPの教育も非常に一生懸命やっており、多様な考え方を受け入れていくという意味で、本当に皆さんが腐心してきたところをきちんと踏襲していただいていることは本当に素晴らしく、新発田らしい良い授業であつたと思います。将来を全体的に考えるためには、またとない機会と経験だつたと思いますので、これを企画されたこと、それから御担当いただいたこと、本当に感謝しております。ありがとうございました。

○佐藤講師

少し補足させていただきます。前半聞いていただかなかつた部分、前半部分の授業が実はキャリア教育の話でした。新発田で働く人で男性が育児を担当している話や、女性の実家に帰ってきた男性の話等を前半の1限で行いました。授業後のアンケートで、男女がそれぞれの立場を尊重しながら仕事、生活、子育てをすることが大切だと思いますかという問いに対し、90.2%の人がYESと回答しているので、キャリアに関しても理解が深まっていると思っています。また、なりたい仕事に関しても、講座受講前と受講後で考えは変わらないという人もいるのですけれども、多い時では15%ぐらいの子ども達に変化したと回答する学校もあります。今回加治川中学校では、将来について、事前のアンケートではネガティブな回答をしている人が6割ぐらいいました。人生について不安と回答している人が6割ぐらいです。しかし、事後アンケートでは、人生についてわくわくすると回答した人が41.5%、希望があると回答した人が12%、自由であると回答した人が4.9%で、全て足すと6割ぐらいの人がポジティブな回答をしていました。また、将来についてまだ決まっていと回答した人は14%、何となくネガティブなイメージの人が26%ぐらいまで下がってきているので、先ほど笠原委員がおっしゃられたように、この授業をとおして、将来について夢がある、わくわくすると感じている生徒が多いということが、速報で今お見せできる数字です。

○二階堂市長

ありがとうございました。それでは、工藤教育長の方からお願いします。

○工藤教育長

今日はありがとうございました。佐藤先生には素晴らしいメリハリのある授業をしていただきました。

職業については、これまでも職業体験学習等、加治川中学校だけでなく、全ての学校で職業だけに特化したものを行っていたのですが、今は自分の人生設計に目を向けていくことにグレードアップしたんだなと私は思っています。こうやって外部の講師を呼んで授業することは尊いことなんですね。違う観点を持つ先生に来ていただいて話を聞くと、子ども達に浸透していくんですね。これはとても大事なことです。ただ、そこで問題になるのは、佐藤先生もおっしゃったように、学級の雰囲気、学年の雰囲気に合わせ、それが受け入れられるかどうかなんです。つまり、学校が生徒を育てるということです。先ほどの挨拶が良いとの話がありましたが、堀田校長先生、廣澤教頭先生から、子ども達に精神面においても指導していただいています。新発田の教育は人を大事にしようというのがメインなのですが、それを体現していただいています。そのような素地があるので受け入れられるんです。これがないと子ども達の反応が薄く、白けてしまって授業がやりにくくなります。先ほどは、子ども達が一生懸命授業を受けていましたが、特別支援の子にずっと介助員が付き、書けないところを補助していました。これは新発田の教育の素晴らしさなんです。全ての子ども達を取りこぼさず見ていこうということで、今日は2年生50人にしっかり授業ができたのは学校教育の成果ですし、また、今日の講師の佐藤先生のおかげだと思います。

市長が最初に野茂投手のモデリングの話をされました。ああいう人になりたいと目標を持つことはこれまでもあったのですが、今はモデリングプラス自分のことを考えてデザインしていくことが必要な時代になったんですね。ですから、大変タイムリーなことをやっていただいていると思います。結局子ども達は思春期で恥ずかしいとか、あるいはかっこつきたいとか色々考えますよね。そのような時に自分を出せるか、自己開示という言葉を使ってみましたけど、それができるかどうかです。ちゃんと佐藤先生はわかっている、自己開示を進めていただいて、最終的にこの集団が自分を受け入れてくれるかどうか大事なのですが、受け入れてくれる素地がないと対話や話し合いが駄目なんです。また、きちんと秘密を守ることや拍手をすること等も、実は学校の授業で大事なところなんです。それを授業の中で全部やっていただいていたので、子ども達も安心して自分を出すことができたと思います。最後にアンケートがあって、全員がタブレットで回答しています。小中学生全員が授業でタブレットを使用している大変良い場面を市長にも見ていただいたと思っております。やっぱり学校は学校だけでなく、多くの地域の方の力を借りてやっていくことがとても大事だと思います。よく市長が「学ぶということは自分が変わるってことだ」とおっしゃっているの

ですが、まさにそのとおりです。知る、学ぶということから生徒が変わるんです。そうすると、やはり新発田も変わってくると思います。本当に今日は良い授業を見せていただき、また学校の皆さんの日頃の苦勞が伝わってきて、大変素晴らしい学校、校風を作っていることに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

○二階堂市長

ありがとうございました。これは言い忘れたというようなものはありますか。ありましたら発言をお願いします。ないようであればこれで締めたいと思います。本当にありがとうございました。素敵な授業を見させていただきました。

中学生向けライフデザイン講座を始めて5年になり、大変学校からは評価をいただいていると職員から聞きました。正直、本当かなと思っていましたが、今拝見をして、そうではないなと思ったことと、もう一つ大きな宿題もいただいたと思っています。アンケートには夢の夢を書いたかもしれませんが、決して嘘を書かなかったんだろうなと思っています。アンケートの結果について、それをどう我々行政が生かしていくか、まちづくりにどうはめ込んでいくかというのは、これは我々の問題でありますので、ぜひそのアンケートの調査も含めてデータも含めて、職員はしっかりと自分のものにして、まちづくりの方で提案をするようにしてください。今日は大変どうもご苦勞さまでした。

(6) 閉会

○樋口みらい創造課長

委員の皆様大変活発な御意見いただいてありがとうございました。教育委員会と我々新発田市にとっても非常に有意義な会議になったと思います。ありがとうございました。

以上をもちまして、令和7年度第1回新発田市総合教育会議を閉会いたします。